

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2007年8月7日
調査実施の時間	開始10時00分 ~ 終了15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム グローブハウス (大阪府)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
18 常勤7人, 非常勤11人, 常勤換算6.5人	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 日野和臣
	氏名 岡村美穂
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 伊名田信一 ヒアリングを行った職員数 (3)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2770107932
法人名	医療法人 誓歯会
事業所名	グローブハウス
所在地	堺市西区浜寺石津町中2丁6番28号 (電話)072 280 2088
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店
所在地	大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル3階
訪問調査日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(平成19年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 17年6月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18人 常勤7人, 非常勤11人, 常勤換算6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	4階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4万~6万5千 円	その他の経費(月額)	3万5千 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (30万 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要(6月 16日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	6		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 82歳	最低	61歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈友会 堺山口病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は4階建てで、1階がデイサービスセンター、2階と3階がグループホームになっており、互いに行事やレクリエーション等を通じての交流も盛んに行われている。日常的に午前と午後、体操を行ったり、レクリエーションで楽しんだり、また、入居者の希望を考慮して家族にも働きかけながら外出支援を行ったり、ストレスを解消する方策も取り入れている。地域関係機関との連携や交流、ボランティアの受け入れにも注力しているホームであり、地域密着型サービスとしての役割を理解しながら、今後も積極的な活動を行われることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	家庭的な共有空間づくり、個別具体的な介護計画作成、継続的な研修の受講等が改善課題としてあげられた。その後の取組みにより、介護計画見直しの実施及び外部研修の受講等は改善状況にある。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審に関わる自己評価は管理者等が中心となり実施及び作成を行った。しかし、介護職員も別様式により個別の自己評価を行う取組みがある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度、定期的に運営推進会議を開催している。自治会長、民生委員、小学校教師、教会牧師等、幅広く参加者を募っている。ホーム内外での活動状況報告、地域との交流内容報告等を行い、その他意見交換がなされている。その場での意見をホーム内会議等の機会において職員間で確認作業が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用料支払い等により定期的に家族が訪問される為、日常の暮らしぶりを伝えたり、写真をご覧頂いたりして個別に報告を行っている。また、その機会において、意見等を聞き取り、内容により申し送りや会議で話し合い、サービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の自治会に加入しており、事業計画に基づき、参加するように努めている。近隣小学校との交流、子供の見守りパトロール実施やボランティアの受け入れ等、地域の一員としての活動を行っている。

2. 調査報告書

主任調査員氏名:日野和臣 / 同行調査員氏名:岡村美穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心から心へ」安心と信頼に基づいた安らぎのある暮らしを提供する。小さなことを大きな愛をもって行動する。を理念に掲げて、サービス提供が実施されている。		地域密着型サービスが果たすべき役割を理解し、反映した理念の内容になっているか、会議等の機会において今一度、職員皆で話し合われることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見えやすい位置に理念を掲げ、日常的に意識しやすいように工夫している。		会議や申し送り等の際に、定期的に理念に触れる機会を設ける等して、理念を更に共有するための具体的な取り組みを行われることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、自治会長や民生委員等から地域の情報を得ることで、地域の行事に参加するように努めている。近隣小学校との交流、子供の見守りパトロールやボランティアの受け入れ等、地域の一員としての活動も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年と同時期に外部評価を受審している。前回の評価結果を踏まえ、業務改善へとつなげている。今回の自己評価は管理者等が中心となり行ったが、介護職員も個別での自己評価を行う取り組みがある。		外部評価項目に関する自己評価も介護職員も含めて確認を行い、「気づき」に繋げることで、ケアに活かされることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8 18	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1度、定期的に運営推進会議を開催している。自治会長、民生委員、小学校教師、教会牧師等、幅広く参加者を募っている。ホーム内外での活動状況報告、地域との交流内容報告等を行い、意見交換がなされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区担当者窓口とは随時連携を図っている。また、在宅介護支援センター職員のホーム見学を受け入れたり、高齢者虐待防止ネットワーク企画運営委員として活動する等の市と連携した取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料支払い等により定期的に家族が訪問する為、その際に日常の暮らしぶりを伝えたり、写真をご覧頂いたりして個別に報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等訪問時において、意見等を聞き取り、内容により申し送りや会議で話し合い、サービスに反映させている。また、意見箱の設置を行い、収集にも努めている。		家族等からの意見を事業運営に反映させる為の手段として家族会を開かれるホームもあり、更に意見を表しやすい機会づくりをすすめられることを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに介護スタッフを固定することで馴染みの関係を築きやすくできるように配慮している。職員の離職の際にも引継ぎの期間をしっかりと持ち、スムーズに移行できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ユニット別に会議を開き、職員からの聞き取りを行いながらモチベーションを下げないように努めている。年に数回、管理者を中心として社外研修に参加し、他の職員に伝達を行う形で内部研修を行っている。</p>		<p>職員の経験や力量に応じて、必要な外部研修が受けられるように、また、計画的に内部研修を行うことで職員が更なるスキルアップを図れるように環境や体制を構築されることが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同区内のグループホームと協調して連絡会をつくり、問題点に関する意見交換を行いつつ、共にサービスの質向上に向けて取り組んでいる。今後、相互訪問や研修会を行うことを検討している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居契約前には入居者本人及び家族と相談し、双方出来る限り納得した上で、利用を開始できるよう努めている。事例としては少ないが体験入居を行って頂いたり、家族の協力を得ながら雰囲気馴染んでいただけよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常会話の中で、入居者の過去の経験から得られた知恵や知識を学ぶ機会があり、時には励まして頂く場面もあり、入居者が支援を受ける一方の関係ではない。掃除や洗濯等の役割を持ちつつ、力を発揮して頂く場面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者がゆっくりと過ごせる時間に暮らしの希望や意向を聞き取るように配慮している。また、家族からも情報がえられるように努めている。意向として、外出支援に関わる内容が多いが、その実現に向けて本人本位に検討、支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時のアセスメント及び日常の関わりの中から意見や希望を聞き取り、センター方式を取り入れながら現状を把握し、介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとの介護計画の見直しを基本に、サービス担当者会議を通じて得た情報を参考にしながら、新たな計画を作成している。また、本人や家族に提示し、署名や捺印を得ながら、サービスが提供されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携を行うことで、定期的に訪問診療を受けつつ、健康管理がなされている。また、状況次第とはなるが、短期利用も可能なように支援体制が敷かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週2回の提携医療機関からの往診と週1回の歯科衛生士の訪問がある。また、入居前からのかかりつけ医の受診も可能である。家族に通院介助を依頼したり、職員の介助により、柔軟な対応が行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針を示し、利用開始前での意思確認、また状況に応じた話し合いを行うことで、終末期等ケアに関する考え方を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に管理者より個人情報の取り扱いに関して説明がなされている。また、会議等の機会においても話がなされている。ホーム見学時においてもプライバシーを損ねるような対応は見受けられない。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や食事時間等、特別に決め事をつくらず、一人ひとりのペースで支援するように努めている。また、散歩や買い物等の外出支援もその日の希望に沿えるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまでの過程の中で、入居者の力を活かしつつ、共に楽しみながら食事を摂れる配慮が見受けられる。また、時には外食して、気分転換を図ることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の配置上、夜間帯の入浴支援は難しいが、その他、曜日や回数等は入居者の希望にあわせた支援がなされている。併設デイサービスの大きな浴室を利用して温泉感覚を味わうことも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「できること、できそうなこと」を明確にすることで、役割を持って頂き、極力手を出さずに支援することを考えている。入居以前の趣味等を確認することで、料理や書道を行って頂いたり、レクリエーションで楽しみながら過ごして頂くように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット内の職員数を考慮に入れながら、外出支援を行っている。個別での支援に加え、大人数で花見に出かけたり、バーベキューを楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階への移動はエレベーターを利用するが、ユニット扉及び玄関は日中は開錠されている。入居者への安全面の配慮からユニット扉の開閉時には、ベルがなるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署員の指導と自主的な形式での避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が、入居者の希望を考慮しつつ、献立を作成している。献立の内容を看護師や併設デイサービスの調理師にも確認をとりながら栄養面にも配慮している。食事及び水分摂取量も適量になるように確認がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間における不快な音や光は感じることはない。共用空間に畳敷きの和室部屋があり、掘りこたつや座卓等を設置する配慮がなされている。		職員らの手配によりソファが置かれ、以前と比べても共有空間作りへの配慮が感じられる。しかしながら、壁面に折り紙等を利用しての飾り付けや演出がなされており、「高齢者の住まい」という観点から見た場合には違和感がある。また、廊下の照明の強度もやや気に掛かる。今一度、皆で意見を出し合う機会を持たれることが望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者の使い慣れたものを自由に持ち込めることができ、入居前に入居者本人及び家族にも説明がなされている。		持ち込み品が少ない、家族の協力を得にくい等の場合においても、一人ひとりについてその人らしい居室内環境作りを職員と入居者とで一緒に考え、継続して行うことが大切であると考えている。今後も継続した環境作りへの取り組みに期待したい。

は、重点項目。